

2007

5/15

第47号

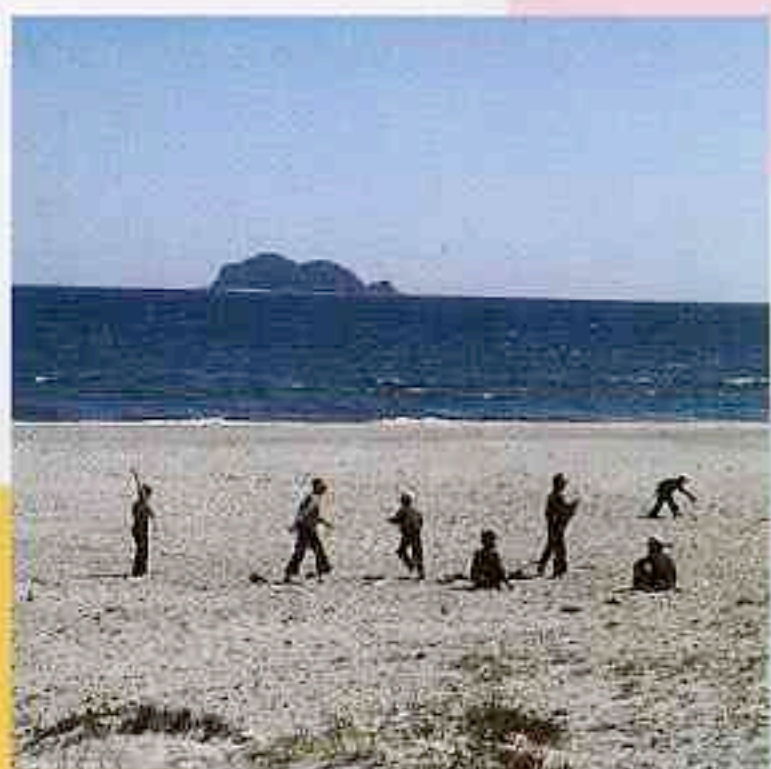
ピスト



シヨツクだったサイパン
のバンザイクリフ。辛い
講談『はだしのゲン』を
語る／神田香織さん

品川工場操業から終わりまで。中野千恵子さん(稲城市)

「ホメオスタシス」を知っていますか。北浦正行



●連載マンガ「娘がどうもアヤシイぞ」●ボクの東京探検「深川江戸資料館」天保時代があるんだよ。

異国漂流／「ブロンペン」シエムリアップ
(カンボジア)。快適、カイテキ！ ボートは猛スピードだ。まっしぐらに進むんだぜ。

ふるさと自慢・言いたい放談／
三春滝桜こそ私の心からの古里。
そして誇りなんです。(福島県三
春町・渡辺美智代)

これはただばっく共済がらのプレゼントです。

神田 香織さん (講談師)

『戦争』や『原爆』を語るのは辛い。 でも怒りの講談止められない。 「被害者意識だけ」でなく。

—— お生まれになったところからおうかがいしたいのですが。

香織 福島県いわき市です。常磐炭坑でおなじみのところで、五市合併してできましたが、私が生まれたのは漢字で書くもともとの『磐城市』です。

—— 日本で最初にひらがなで市名を表示したところで、松山市の道後温泉、神戸市の有馬温泉とならんで、日本の三大古泉といわれる湯本温泉がある…。

香織 そうです。
—— 最初は、演劇を志したんですか。

香織 高校生のときに演劇クラブに入っておりまして、それで興味が湧いて、新劇の劇団へ入ってみたいと思ったんです。

—— どちらへお入りになられたんですか。

香織 東京演劇アンサンブルというところですよ。

昨年、亡くなられた広渡常敏という演出家を中心になって、プレヒトの芝居を多くやっているとあります。

—— 見ましたけど難しくってわからなかった(笑)。

香織 理屈っぽくて、難しくって(笑)。

私は劇団の養成所を出て、劇団には残ったんですが、いわきの訛りが手枷足枷になって思うように演劇活動ができない。そのうち講談はメロディックで、訛りの矯正になるといわれて、山陽師匠に紹介されて気楽な感じで習い始めました。

—— 神田山陽師匠のお弟子さんなんですね。

香織 山陽師匠はお坊ちゃま

で、芸人を自分の家に呼んで講談を憶えて、真打ち待遇で講談協会に入った方です。いい講談師を育てたいと一所懸命な人でした。あの師匠がおられなかったら講談の世界に残らなかったと思います。

一年経って、芝居をやめ、講談の世界に入りました。講談師は講談協会に入って前座修行をしなければ、二つ目、真打ちになれないという決まりがあったからです。前座修行を三年やり、二つ目になりました。

ほどなく開放感にひたりたいと、サイパンへ遊びに行ったわけですよ。

そのときにホテルのベランダから海を見ていたら変なものがあるんです。一九八五年ですから戦後四十年です。気になって

近づいて見たら、錆びてポロボロになった戦車なんです。衝撃でした。

バンザイクリフへも行き、そこで大勢の日本人が戦争末期、あの崖の上から身を投げて死んだという話を聞きました。

—— あの崖は海面まで八十メートル、ほとんど垂直で、そばに

よるだけで足がすくみます。
香織 そしてあまりにも美しい…海も空も澄んでいて、遙か下に打ち寄せる波も真っ白で…。

—— サイパンの北端、いちばん

日本に近いところですね。
香織 日本人はそこに追い詰められて、アメリカの艦隊が降伏しなさいと言っても日本軍は、降伏するな、自決しろと言ったし、日本軍は現地の人やアジア人や捕虜にたいしてひどいこと

をしたので、もし降伏したら自分たちもひどい目に遭わせられると考えたようですね。

あの崖ですから、飛び下りようとしても足がすくんでしまう。だから後ろ向きになって飛び下りたというんです。子どもを先に突き落として自分はあとから飛び込んだとか…。

—— 飛び下りた人は一万人、あの青い海が、日本人の血で赤くなったという話を聞きました。

香織 その人たちの気持ちや、その状況を想像したら、私はもうたまらなくなりました。

前座修行のときは、古典を勉強するんですが、二つ目になると自分のやりたい話ができるんです。

—— それで私は意気込みまして、ジャズに合わせて修羅場をやっ





Kanda Kaori

たり、踊りを入れて講談をやったり、寺山修司さんが残した講談をやってみたり、いろいろなことをやっています。

しかし、待てよ、お話というのは、中味を聞いてもらうのではないかと思いついていたときでもあったんです。サイパンに行ったのはちょうどそういうときでした。それでサイパンの戦跡を見て「よし戦争を語ってやろう」：戦争って悪いに決まっているんだから：と考えたんです。

ところが日本にもどりまして沖縄戦や、広島、長崎の原爆のことを勉強してみよう：取材に行ったりしていると：辛いんですね。戦争末期、沖縄のガマ（洞窟）に潜んでいる現地

の人を想像したり、広島、長崎で原爆に合い、肩から指の先までズリりと皮がむけてしまう情景を想像したりして、夜中にガバッと起きてしまうこともあるんです。

「戦争のことを語るなんて思わなければよかった」「辛すぎる」と思いつつも戦争というテーマから私は離れられなかった。そして広島原爆資料館でフツと中沢啓治さんの『はだしのゲン』を見つけたんです。

——中沢啓治さんの自伝がタテ糸で、怒りに満ちている……

香織 子どものときに、少年雑誌の連載を読んだことはあるんです。

私は気持ちに興奮してきて、この話なら、原爆の残酷さを伝



れ一回でやめよう、と思いながらやりました。しかし終わったらあと被爆者が楽屋まできてくれました。「よくぞここまでやってくれました」「自分たちが語り継ごうと思っても歳をとってくるとし：」「あなたが語り継いでくれるのはありがたい」とそうおっしゃるんです。全国方々へ行きまして私は被爆者からゲンキをいただきました。私はやるわけにはいかないんです。

日本の三大話芸は浪曲、落語、講談といえます。講談のいちばんの特徴は、張り扇と扇子で枱を叩きながら「これでいいのか」と叫ぶことです。昔はジャーナリストの役割をしたのが講師ですから。

——笑いの落語、涙の浪曲、怒りの講談と言いますね。

香織 そうです。ベトナムの戦跡も行きました。そして考えたのは、アメリカは上から下を攻撃する：ということなんです。

ベトナムでは、飛行機でジャングルに枯葉剤を撒いてジャングルを枯らす、ということを考えて、それをやってしまいました。アメリカは恐ろしい国だと思えました。そのために三十年経っても奇形児が生まれています。

原爆も上からですし、東京大空襲もそうですし、イラクだっ

てアフガニスタンだって、どこでもアメリカはそうじゃないですか。

アメリカが今もそういうことを続けてやっていることに日本は責任があると思うんです。原爆を落とされても、落としたアメリカに尻尾を振って、落とされた日本が応援している……。中国や韓国の戦跡もずいぶん見ましたけれど、日本人は歴史を認めようとしないうることを感じます。「記憶は弱者にあり」ということを考えなくちゃいけないと思います。

——俗なことはで言いますと、アジアの国々を先にぶん殴ったのは日本ですね。

香織 そういうことです。「脱亜入欧」といって、西欧の真似をして、日本は戦争に突き進んでいきました。

——被害者意識だけの「戦争はもうこりこり」という平和運動だと、日本は強い国になればいいということになります。

香織 アジアでやった日本軍の残虐行為は学校なり、地域なりで、もう少し教えなければいけないんじゃないですか。ちゃんと教えないと日本は、アジアの国々から浮いてしまいますね。

——お忙しいなか、ほんとうにありがとうございます。